

旧県美が 変わります。

2021年、旧県立美術館は、秋田市文化創造館へ

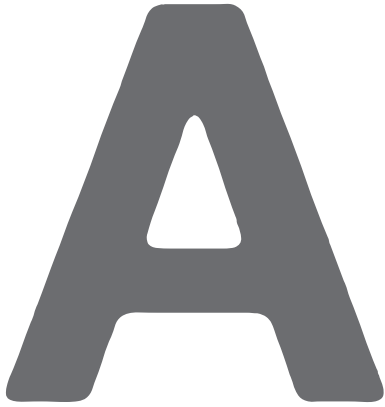


秋田市

Q

新しく生まれ変わる旧県美、
私たちも行っているの？

鈴木美羽さん（18歳 / 高校生）



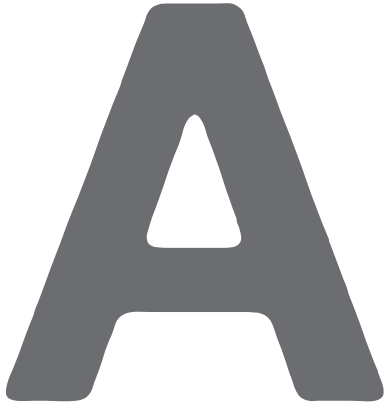
もちろんです！ 旧県美は、「文化創造館」として 2021年春にオープンします

旧県立美術館は、幅広い市民が立ち寄れる空間に生まれ変わります。旧県立美術館は1967年に開館し、藤田嗣治が描いた壁画《秋田の行事》をはじめ数々のアート作品を所蔵・展示してきましたが、2013年に現県立美術館に美術館としての機能を移し、閉館。その後、建物の活用について検討がなされてきました。2015年、秋田市が中心市街地を「芸術文化ゾーン」として充実させる方針を固め、市民ワークショップ等を経て、2018年3月に秋田市文化創造交流館（仮称）として活用されることになりました。2019年7月から改修工事中で、未来に向けて新しい価値を生み出す「文化創造プロジェクト」の拠点として、2021年春に開館予定です。

Q

どんな場所なの？
何ができるの？

三谷 葵さん (38歳 / 編集者)



すべての人に 開かれた場所です

秋田市文化創造館は、秋田に暮らすすべての人のための文化創造の拠点です。新しい建物の周囲にはウッドデッキが張り巡らされ、さまざまな人が憩います。施設とつながる芝生広場ではのんびりとくつろいだり、お弁当を広げたりもできます。時には広場でクラフト市やマルシェが開かれることも。物販、カフェスペースではショッピングやティータイムを楽しむこともできます。子どもから若者、大人まで、さまざまな人や世代が出会い、集まり、交流することで新しいアイデアや工夫が生まれるかも。まずはふらっと足を運んでみてください。何か新しいことにきっと出会えるはずですよ。

Q



長谷川大典さん
(37歳 / 飲食店スタッフ)

何かおもしろいこと、
あるのかな？

A

やってみたいこととの出会い、 お手伝いします

日常にちょっと刺激がほしい、新しいものに触れたいと感じたら、文化創造館に来てみてください。ここには新しい知識や視点に出会い、学び合うためのタネがいくつも転がっています。セミナー、ワークショップや交流会なども随時開催。一人ひとりの創造力が集まれば、新しいアイデアが生まれるかも。ここでの活動はウェブサイトや刊行物で記録・発信されるので、**やってみたいと思える何かに出会う**ための情報収集もできますよ。

Q



久光 強さん
(70歳 / レコード店スタッフ)

三富章恵さん
(39歳 / NPOスタッフ)

三待あかりさん
(21歳 / 作家)

島 崇さん
(38歳 / NPOスタッフ)

安達香澄さん
(46歳 / ダンサー)

私たちの集まりや活動にも使えるの？

A

はい！さまざまな活動の制作や発表に使えます

ダンス、演劇、音楽、華道や茶道など幅広い活動の場、発表の場として活用できる、スタジオを備えた開かれた場です。また「メンバーを募集したい」「こんな活動をやっている団体がいないかな？」など、日頃の活動が飛躍するきっかけづくりや、「初めてだけど、こんなことをやってみたい!」といった新たな挑戦をお手伝いするスタッフがいます。文化創造館発信のイベントや展示により、新たな刺激となる表現と出会う機会も生まれるでしょう。

Q



カナレスルイさん
(23歳 / 大学生)

ギアベタ
サミュエルさん
(20歳 / 大学生)

榎唯衣さん
(20歳 / 大学生)

ディアーナムイジエさん
(21歳 / 大学生)

リハラムさん
(22歳 / 大学生)

どんな人が集まるの？

A

さまざまな人が集まります
そして、新たな知識や視点に
出会う機会をつくります

文化創造館は、魅力的な建築空間を活かして、すべての人に開かれた寛容な環境をつくります。まちの中心に居心地がよく、自然と集まりたくなる場所が生まれたら、何か楽しいことが始まりそうな気がしませんか？自由で柔軟な環境をつくる文化創造館は創造力を養い、発揮するためのまちの「余白」。背景や価値観の異なる人が集まり、**ともに創り、交流し、学び合う**ことで、新たな知識や視点に出会う機会をつくります。

Q



千葉 彰さん（72歳／会社員）
千葉美子さん（70歳／主婦）

横文字だとイメージが湧かないのよね

A

わかりやすく 説明します！

クリエイティビティ、ワークショップ、プロジェクト……。横文字をたくさん使って申し訳ありません。クリエイティビティとは「創造力」のこと。ワークショップとは体験型講座のこと。座って話を聞く講座（セミナー）よりも参加者が主体的に関わる講座のことです。そういう企画＝プロジェクト。つまり、衣食住といった身近なことから、さまざまな文化活動を通じて、**みなさんの日常が楽しくなるきっかけづくり**をするのが文化創造館の仕事というわけです。

出会う、つくる、はじめる



虫眼鏡でご覧ください。

天井の高い空間
を生かして…

3F

2F

1F

2~3Fは吹き抜け

Wi-Fiも使えます!

周囲に
ウッドデッキ

敷地に入りやすい
広い入り口

2021年春、旧県立美術館は 秋田市文化創造館としてオープンします！



3つの考えのもと、[6つの基本方針]

1. 新たな文化創造を目指して

秋田市文化創造館は、未来に向けて新しい価値を生み出す「文化創造プロジェクト」の拠点として、出会い、つくり、はじめる場となります。また、中心市街地の魅力を高める「芸術文化ゾーン」の核として、新たなまちの未来をつくります。ここでは、改修工事の着工を前に策定した秋田市文化創造館の運営管理計画から、基本的な運営管理のあり方を紹介します。

2. 基本理念

秋田市文化創造館は、すべての人がクリエイティビティ(創造力)を発揮するための文化創造拠点です。創造力とは、誰もが潜在的に備えている力。新しいものに触れたい、つくりたいと願う、人が生きるうえでの根源的な力でもあります。

秋田市文化創造館では、市民一人ひとりの創造力を育むため、すべての人に場を開き、学びと出会いの機会、活動のための環境、情報発信等のサポートを提供します。また、専門家等と協働して実験的なテーマに取り組む事業を通し、新たな思考や創造のきっかけを生み出します。さらに、施設で生まれた活動やアイデアを積極的にまちに開き、秋田の魅力づくりに貢献します。

3. 大切にしたいこと

- ・自由で柔軟な環境をつくること
- ・市民一人ひとりの創造力を尊重し、応援すること
- ・生み出された多様な価値をひろげること

で、“文化創造のまち”を目指します！

[6つの基本方針]

空間の提供

すべての人に開かれた 環境をつくる

魅力的な建築空間を活かして、すべての人に開かれた寛容な環境をつくります。多様な人が共に過ごし、創造力を養い、発揮するための「余白」を生み出します。

機会の提供

創造力を養う 出会いの機会をつくる

創造力を養うための機会を創出します。背景や価値観の異なる人が集まり、ともに創り、交流し、学び合うことで、新たな知識や視点に出会い、主体的な意欲を掻き立てます。

創造支援事業

創造力を発揮する 活動を支援する

コーディネーターが利用者のアイデアの実現や発表、情報発信をサポートし、創造力の発揮を支援します。日常に息づく創造力を高め、まち全体を魅力的にしていくことを目指します。

創造実験事業

創造力を刺激する 実験的事業を行う

多様な分野の専門家を招いたイベントや、クリエイターとの協働プロジェクトなど実験的なテーマに取り組み、新たな視点をもたらす自主事業により市民の創造力を刺激します。

地域連携

創造力を 秋田のまちにひろげる

近隣の歴史・文化施設、商業施設や施設外のエリア、他分野の事業とも連携します。アイデアや企画を地域に開くことで新たな価値を生み出し、未来の文化を創造する力を秋田のまち全体にひろげます。

情報発信・アーカイブ

活動の過程と成果を発信し、 アーカイブする

活動をウェブサイトや刊行物などを通じて記録・発信し、アーカイブしてより多くの人を巻き込みます。全国各地で文化創造を試みる人たちと情報共有し、よりよい施設運営に活かしていきます。

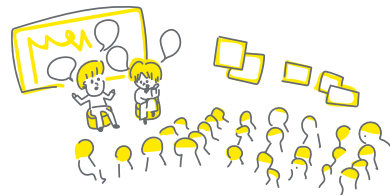
プレ事業 乾杯ノ練習²⁰¹⁹とは

この6つの基本方針に基づき、開館に先駆けて、トークイベントやまちあるきツアー、公募事業などを展開したプレ事業が「乾杯ノ練習」です。宴会の席で、練習にかこつけて先に始めてしまうように、開館前に、ちょっとお先に始めてしまいました。2019年度の活動を、14～23ページにまとめました。

医師・稲葉俊郎が語る、 「医療と芸術、いのちを呼びさます」

既存の分野を飛び越え新しい分野を創っている人たちをお招きして、地域の歴史や今日を知り、新しい知識や視点を得ることで、今よりちょっと先の生活について考えるトークイベント「未来の生活を考えるスクール」。第1回は、医師の稲葉俊郎さんをお招きし、生きるための医療や芸術とは、いったいどんなものなのかをお話いただきました。

稲葉俊郎



Toshiro Inaba

僕が医者になろうと思ったのは、困っている人の助けになりたい、人の命に関わる仕事をしたいと思ったのがきっかけです。僕は、もともと体が弱かったんですね。2歳ぐらいのときまで、毎日のように病院に入院しているような生活でした。当時、あまり長く生きられないだろうと、皆が思っていたみたいですけど、色々な人の助けのおかげで今こうして生きています。そのときから、残りの人生はギフトでおまけのようなものだとも今でも思っています。医学の助けで生きることができた恩返しとして医者になりました。

医療現場の仕事では心臓が止まった人を救命することもあって、劇的な回復で西洋医学の力を感じることも多いです。ただ、ときに患者さんから体の病気は良くなったけれど、全然幸せと思えないとか、生きている実感がなくなると言われることもあってショックを受けることもあります。何のために医者は命を救うのだろうかかと自問自答することも多いのです。体だけではなく、心も同時にケアしないと、生命の全体性は失われてしまうのではないだろうか、と。その一方で、おいしいご飯を食べるだけで満ち足りた気持ちになったり、

温泉に入ったら体も心も緩んでリラックスしたり、音楽や美術の世界に身を浸ると心身が心地よいて感じて元気になったりする。そうしたことは病院の中ではなく、わたしたちの暮らしのなかにもこそ数多くあります。そうしたものも広い意味で医療と呼べるのではないかと、医者になってからもずっと感じ続けていました。

僕は、芸術は生きることに於いて欠かすことができないものだと思っています。芸術も医療も根本的に目指しているものは、全体性を取り戻すことだと思うんですね。全体性とは何か。体は脳や血管や心臓や骨や、色々な部分からなる全体の場合です。心は意識活動だけではなく無意識も含めた全体的な場です。人生は赤ちゃんから子ども、大人、老いを含めた全体的なもの。体の全体性、心の全体性、人生や命の全体性。そうしたものが失われたときに人間に全体性を取り戻させるのが、医療や芸術の役割なんじゃないかと思うんです。

世阿弥ふうしかでんの『風姿花伝』では、『奥儀おうぎに讃歎さんたんして云わく、そもそも、芸能とは、諸人の心を和らげて、上下の感をなさん事じゅふくぞうちよう、寿福増長じゆふくぞうちようのもとゝ、遐齡延かねんの法なるべし。極め極めては、諸道ことごとく



じゆふくえんちよう

『寿福延長ならんとなり』とあります。芸能の奥義とは、わたしたちの心を和らげ、上下という感覚から自由になるもので人間は絶対的に平等である。そして、寿と福を増やし寿命を延ばす法則ですよと。すべての道を極めると、寿と福を増やすことに通じていて、これは能楽だけじゃなくて、すべての道、茶道でも華道でも日本で伝えられているすべての道の奥義ですよ、と言っているわけですね。

改めて昔の日本の伝統や芸道の世界を見直してみると、華道、茶道、弓道などの道の世界が、寿や福を増やし、心の全体性や調和を取り戻す世界であるとすれば、まさに医療そのものなんじゃないかと思います。今の医療に必要なものは、「病気学」としての西洋医学を補うものとしての「健康学」です。つまり、私たちが健康に生きるということはどういうことかを発見すること。伝統の世界から、歴史の荒波の中で揉まれながらも生き残り続けた野生の生命力こそを発見すべきだと思います。私たちが今の暮らしの中で実践し実験しながら生きていくことが新しい発見につながるのではないのでしょうか。そうしたことも医療と芸術の接点にあるのだと思います。

未来の生活を考えるスクール

第1回 医療と芸術、いのちを呼びさます

日時：2019年9月7日(土)

会場：ほくとライブラリー-明德館 2F 研修室

稲葉俊郎さんはとてもユニークなお医者さんです。日々、医療者として病や人との対話を繰り返す一方で、音楽や絵画などさまざまなジャンルとの接点を模索しています。自らも絵を描き、能を習うというように創造的活動をしています。稲葉さんは「すぐれた芸術は医療だ」と言います。よりよく生きるための医療とは、芸術とは、いったいどんなものなのか語ってもらいました。

トーク 稲葉俊郎

1979年熊本生まれ。東京大学医学部付属病院循環器内科助教。心臓カテーテル治療、先天性心疾患、在宅医療、山岳医療が専門。2011年の東日本大震災をきっかけに、医療があらゆる領域との創発を起こすために、さまざまな分野を横断した活動を始める。山形ビエンナーレ2020芸術監督就任。

聞き手 唐澤太輔

1978年生まれ。南方熊楠研究、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科准教授。慶應義塾大学文学部卒業。早稲田大学大学院社会科学研究所博士後期過程修了。博士(学術)。早稲田大学社会科学総合学術院に助手、助教として勤務した後、龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員を経て現職。専門は哲学/文化人類学。特に、人類が築き上げてきた民俗・宗教・文化の根源的な「在り方」の探求を知の巨人・南方熊楠(1867~1941年)の思想を通じて行なっている。近年は、熊楠とアートの思考の比較考察、及び華厳思想の現代的可能性についても研究を進めている。



左は講師の稲葉俊郎さんの著書『いのちを呼びさますもの』(アノニマ・スタジオ、2017年)。他にも『ころころするからだ』(春秋社、2018年)、音楽家・大友良英との対談をまとめた『見えないものに、耳をすます 音楽と医療の対話』(アノニマ・スタジオ、2017年)など著書・訳書多数。
<https://www.toshiroinaba.com/>

未来の生活を考えるスクール



第2回

食べもののことを知る
映画『よみがえりのレシピ』+トーク

トーク 渡辺智史 [映画監督]

日時：2019年11月15日(金) 会場：ルミエール秋田 シアター2

「未来の生活を考えるスクール」第2回は、山形で伝統野菜の生産者やシェフの活動を記録したドキュメンタリー映画『よみがえりのレシピ』の上映会を開催しました。上映に続いて、監督の渡辺智史さんから映画製作にかけた想いを伺いました。そのお話から、伝統野菜を支えている人たちのことや映画の背景を深く知ることができました。ところで、皆さんは秋田にも伝統野菜があるをご存知ですか？

映画『よみがえりのレシピ』は地域色豊かな伝統野菜とその食文化を守り、継承していくことの重要さに気づかせてくれる映画でした。

ここで秋田の伝統野菜のレシピを2品ご紹介。身近な伝統野菜を実際に食べてみませんか。



関口なす

秋田の丸なすの中ではやや卵形でたくさんの実をつけるなす。皮はやや固め、果肉は締まっています。苦みがあり、へたの下が白いのが特徴。湯沢市から横手市にかけて栽培される。

関口なすの揚げだし

[材料(4人分)]

- 関口なす 300g (12個程度)
- しょうゆ・酒 各大さじ4
- みりん 大さじ2
- 砂糖 小さじ2
- カツオと昆布のだし汁 150cc
- 揚げ油 適量

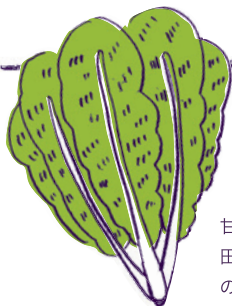
作り方

- ① 小鍋にしょうゆ、酒、みりん、砂糖、だし汁を合わせて3分ほど煮立て、冷ましておく。
 - ② 関口なすは洗ってへたの周りにぐるりと切り込みを入れ、ガクを取って5分ほど水に浸す。ざるにとり、ふきんなどで水気をよくふきとる。
 - ③ 170℃に熱した揚げ油で、3分ほど色よく揚げて油を切る。②に①を絡める。
- ※しょうがや大根おろしをかけたり、つけ汁をポン酢に変えてもおいしい。



あきた伝統野菜

仁井田菜



甘みが強く、わずかに苦みを持つ味の濃い春の青菜。秋田市仁井田地区で栽培される。越冬性が高く、2月頃の雪消えと同時に一気に成長し、5月まで食べられる。

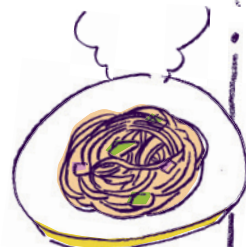
仁井田菜の春パスタ

[材料(4人分)]

- 仁井田菜 1束200g
- パスタ(好みのもの) 400g
- ベーコン(細切り) 80g
- 玉ねぎ(みじん切り) 1/2個
- ニンニク(みじん切り) 1片
- 唐辛子 1本
- オリーブオイル 大さじ2
- 塩、こしょう 適量

作り方

- ① 仁井田菜を長さ4~5cmに切り、3分程度ゆでる。パスタも表示時間どおりゆでる。ゆで汁は50cc程度取っておく。
 - ② フライパンにオリーブオイルを熱し、ニンニク、玉ねぎ、ベーコンの順に炒める。①の仁井田菜を加え、塩、こしょう、小口切りにした唐辛子を加えてさらに炒める。
 - ③ ②にゆであがったパスタとゆで汁を入れて全体を絡める。
- ※仁井田菜を柔らかめにするとうま味よく絡む。



協力：あきた郷土作物研究会

未来の生活を考えるスクール

第3回

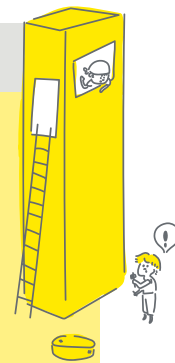
演劇と教育 — 生きる方法を学ぶ —

トーク いしいみちこ [ドラマティージャー]

聞き手 柚木恵介 [アーティスト、秋田公立美術大学准教授]

日時：2019年12月1日(日) 会場：アトリオン 3F 研修室

あらかじめ用意された正解のない教育。そんな取り組みを、演劇を用いて実践するドラマティージャーのいしいみちこさんをお招きした第3回「未来の生活を考えるスクール」。子どもたちが自ら考え成長することをサポートする活動に取り組む、アーティストの柚木恵介さんを聞き手に迎え、演劇などの表現活動を通じた、生きるために必要なスキルを身につける教育の在り方についてお話を伺いました。



いしいみちこ先生とのトークイベントで拝見した上演映像で特に印象的だったのが、生徒たちが自らの言葉で身の丈を表現している姿でした。みちこ先生は「教える」「教わる」ことよりも「考える身体」を育てる人。みちこ先生も高校生の今をご自身の体で考えている。そんな印象が残りました。

一方で、私が関わる「カマクラ図工室」では、普段やらせてもらえないことに挑戦したい小学生が集まります。家出して学校に通う。記憶だけで料理を作る。0円で一日生活をする。その行動力と必死に考えた経験が、いつか自身を押し上げてくれるはずです。時間のかかるものや問いそのものが重要なことも多々あります。答えを見つけることよりも「考える身体」作りが、これからの教育の在り方として大いにヒントになるのではないのでしょうか。(柚木恵介)



未来の生活を考えるスクール



第4回

ナリワイと生活 — 新しい生き方 —

トーク 伊藤洋志 [仕事づくりレーベル「ナリワイ」代表]

聞き手 柳澤龍 [一般社団法人ドチャベンジャーズ会長/代表理事]

日時：2019年12月21日(土) 会場：ヤマキウ南倉庫

得意なことと工夫を掛け合わせて生み出されたという「仕事」の起源に立ち返り、人間的な暮らしを取り戻すことを目指して年間30万円程度の小さな仕事を複数つくることを実践する、仕事づくりレーベル「ナリワイ」の伊藤洋志さん。伊藤さんのこの日のトークから、新しい生き方を考えるためのキーワードを3つご紹介します。既存のルールや常識にとらわれず、工夫と思索で探求する新しい働き方、新しい生き方とは。

[生活の質を上げる仕事]

就職か起業という二者択一化した進路選択や、就職した先の組織の意向に縛られて息苦しい生活を送るのではなく、健康的に楽しくできるような仕事をつくる

[生きる技術は財産]

貯金だけに囚われず、いろんな生活技術を増やすことが財産と考えて、常にいろいろなナリワイを作ることにチャレンジする。工夫を凝らし、DIYを実践し、技を身につけ磨くことは、自立するためのチカラを養うこと

[仕事が文化の一部になると、世の中の変革につながる]

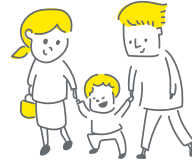
自分のために作った仕事が回りまわって、10年、20年後に全国に薄く浸透し、組織などがなくても、いろいろな「個人」ができる仕事が増えていく。そして、それが文化の一部になると、世の中の流れを変えることもできる



現代の「秋田の行事」をあるく

まちの歴史や今を見つめ、まちを歩くこと。秋田市文化創造館開館後のまちの姿を思い描きながら、中心市街地に出かけてみよう。誰かと一緒に歩いてみると、まちについて話してみると、少しいつもと違って見えるかも。

川勝真一



Shinichi Kawakatsu

その部屋に足を踏み入れたのは、ちょうど本格的な改修工事が始まる直前だった。電気がないために薄暗い階段を登り、2階のロビーを抜けると、柔らかな自然光に満たされたとても大きな空間が広がっていた。そこはかつて画家の藤田嗣治が描いた「秋田の行事」という巨大な壁画が存在していた部屋だ。というよりもその壁画のためにその空間は、ひいてはこの建物は存在していた。その壁画はすでに新しい県立美術館に居場所を与えられ、今はかつてここにあったことを物語る痕跡だけが生々しく残っていた。だから、この場所はそうあるべきということの根拠をすでに失っている。壁画を正面から見るために設けられた3階部分の鑑賞スペースも、ただの広いドーナツ状の空間でしかない。目的を失いつつも、しかしそれゆえに、その光に満たされた大きな部屋は魅力的に感じられた。

「秋田の行事」には、その題名の通りいくつもの秋田を代表する行事としての祭りの様子が描かれている。けれど不思議なことにその左半分はそうした華やかな「行事」ではなく、かまくらの下でものを売る少女や凧を手を持つ子ども、今ではあまり見かけないマント姿の人々の往来が描かれてい

る。祭り(ハレ)部分のダイナミックな動きはこの絵のハイライトだが、厳しい冬の寒さの中で暮らす人々の豊かさや独特の佇まいからは日常(ケ)の持つ静かな迫力がみなぎっている。どちらもが等しく秋田という場所の文化や精神を示すとともに、両者が表裏一体であることを示している。

今では近代的なビルが立ち並ぶ秋田市内。「秋田の行事」に描かれているような昔ながらの風景を見ることは難しい。しかしながら、目を凝らして、気配を嗅ぎ分けながら歩いてみると、少し違うものが見えてきた。それは(竿燈祭りが近づいていたので)トラックに派手な飾り付けをしていたり、竿燈の準備に勤しむまちの人、酒好きが集まる食堂の無数にある日本酒を的確にさばっていく学生アルバイト(運よく当日入店できた)、カフェでラウンジで古着屋で花屋でもあるお店のお母さんと娘さんの友人(外のネオンが怪しくかわいい)、ビールを通して秋田の文化をつくりたいと語るお兄さん(インテリアもこだわり)、知り合いから道具を引き継ぎ始めたセレクトショップのような佇まいのもち屋さん(巨大なお弁当を食べていた)、お昼過ぎの落ち着いた市場で立ち話に花を咲かすお婆さんたち(そこで買ったニシンの塩辛は絶品)。



2つのおすすめツアーコース

【ぐるっと中通一大町コース】

- ① Library/本屋 HonCo
- ② Bakery/菓の町ベーカリー
- ③ Gallery/コラポタトリー
- ④ Cafe/Cafe Epice
- ⑤ clothing store/EJUMBOPINS
- ⑥ Museum/川端角のレトロ博物館
- ⑦ Restaurant/レストランブッフ

【じっくり中通コース】

- Furniture store/M'S APARTMENT ①
- Concept shop/グランマ ②
- Brewery/BREWCCOLY ③
- Gallery/響箱廊 ④
- Women's clothing store/KILALA NOI ⑤
- Tableware/食器のさかいだ ⑥

中心市街地の文化施設

- 秋田市民俗芸術伝承館
Aomori City Folklore and Intangible Cultural Heritage Center
郷土の民俗行事や芸術を紹介している伝承館。
秋田大前 1-3-30 TEL:018-866-2091
9:30-16:30 (LOSE/年末年始)
- 秋田市立赤れんが郷土館
Aomori City Akarenga Red Brick Folk Museum
郷土秋田の歴史などに関する展示をしている郷土館。
秋田大前 3-2-21 TEL:018-864-6051
9:30-16:30 (LOSE/年末年始)
- 秋田市にまいる交流館 AU
Aomori city Regional kourakkan
講演会や会議まで様々な用途で活用できる文化・交流施設。
秋田市中通 1-4-1 TEL:018-853-1133
9:00-24:00 年中無休
- 秋田県立美術館
Aomori Museum of Art
藤田静治の大壁画「秋田の行事」がある美術館。
秋田市中通 1-4-2 TEL:018-853-8686
10:00-18:00 年中無休
- あきた文学資料館
Aomori Literary Museum
秋田ゆかりの作家の作品を収蔵・保存・公開する資料館。
秋田市中通 6-6-10 TEL:018-884-7160
10:00-16:00 (LOSE) 月曜日/年末年始



みな独自の方法で暮らしを表現しているように見えて、それはまさに現代の「秋田の行事」だった。

かつて「秋田の行事」が飾られていた光に満ちた大きな部屋は、近い将来、文化創造館の一部として生まれ変わる。そこでは年間を通してたくさんのはなやかな創造的な「イベント(行事)」が催されることだろう。けれども、それだけでなく日々の暮らしとともにある振る舞いの中にこそ、秋田の「文化創造」がすでに存在していることを、その藤田の壁画は教えてくれる。それらは一見するといわゆる芸術とかアートのようにではないかもしれないが、今ここからの文化を創造するうえでとても大切なものに違いない。

そう考えると、この部屋には今のまま何もなくてもよいように思えてくる。なぜならここで描かれるべきものの多くは、すでにまちの中に存在しているからだ。であれば、出会うはずのない祭りや日常がひとところに集まる壁画の背景となっていた雪景色のように、まちの中でバラバラと点在しているそれぞれの日常が出会うために存在するべきかもしれない。そのときこの部屋は、ふたたび今を生きる私たちにとっての「秋田の行事」となって蘇るわけだ。

マチアルキ

まちあるきツアーをつくる

日時：2019年11月3日(日)
集合場所：秋田市民市場会議室

自分たちでまちの楽しみ方を開拓する、まちあるきツアーをつくるワークショップを開催。中心市街地を歩きながら、「誰かに教えたい」、「友だちと一緒に訪れたい」、そんなまちをめぐるツアーを企画しました。

アテンダント
RAD - Research for Architectural Domain

川勝 真一

1983年生まれ。建築リサーチャー、キュレーター。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、京都精華大学、京都造形芸術大学非常勤講師。2008年にRADを設立し、展覧会やワークショップを通じて、建築と社会の関わりについてリサーチしている。





こども大工募集!



夢のクラフトハウスをつくらう

2019.12.8

会場 アトリオン地下1F

「みんなで乾杯の練習」を経て、市民有志の提案から生まれた企画「こども大工募集! 夢のクラフトハウスをつくらう」。親子を対象に、厚紙でクラフトハウスをつくるワークショップを12月8日にアトリオンで開催しました。チョキチョキと色紙を切ったり、貼ったり、色を塗ったりしながら、思い思いの飾りつけで、ユニークなクラフトハウスが次々と完成。



旧県美の50分の1の模型を中心とした「未来の秋田のまち」に自作のハウスを置いてはいポーズ!



みんなで乾杯の練習

「みんなで乾杯の練習」は、文化創造館が開館した未来のまちについて想像し、話し合う場です。これからどんな暮らしを営み、どんなまちであったらいいのか、おしゃべりしたり、ひとりで考えたり、人の話に耳を傾けたりと、一人ひとりが自分のベースで、誰かとつながったりしながら、考えを深めていきます。この場で生まれた新たなアイデアや、みんなが思い描くアイデアの実現をコーディネーターが支援します。



SPACE LABO

秋田駅前に立地する3つの商業施設内の空きスペースを“クリエイスタジオ”と見立てて展開するプランを公募する「SPACE LABO」。応募のあった14組のプランをポスター展形式で公開し、さらに、その中から選ばれた“ラボ・フェロー”7組が、コーディネーターのサポートを得て、パフォーマンスや展示、リサーチ、滞在制作などのプランを展開。失敗を恐れずにやってみること、試してみること、その試行錯誤や実験性は完成された成果物と同じように豊かな時間を生み出していたのかもしれない。



ポスター展

日時：2019年11月3日(日)～12月22日(日)

会場：フォンテ AKITA 6F 情報発信コーナー

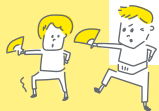
ラボ・フェロープラン展

日時：2019年11月3日(日)～12月22日(日)

会場：秋田駅前商業施設空きスペース

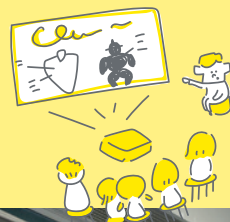
※各プランによって会期が異なります。

<p>1 参加型オブジェ制作展示「木製幾何学パズル」</p> <p>熊谷 海斗 KAITO KUMAGAI</p> <p>秋田生まれ。宮城在住。変化する人と人とのつながり方をテーマにオリジナルの木製パズルを発表。</p>	<p>来場者がパーツを選び任意の場所にはめ込むことで、大きさを増していくオブジェ「木製幾何学パズル」を展示。来場者の手により日々かたちを変えていく参加型オブジェの展示を通し、来場者に、自分の選択肢が他人との繋がりの中にあることを意識させる。</p>	<p>12月7日(土)～12月15日(日) 秋田駅ビル アルス 2F</p>
<p>2 「なくなった」ものを一緒に探しに行くプロジェクト</p> <p>岡崎 未樹 MIKI OKAZAKI</p> <p>岡山生まれ。秋田公立美術大学3年生。「死の文化」「埋葬方法」を対象に調査し、創作活動に取り組む。</p>	<p>目に見えているものが「なくなる」と悲しみに襲われるが、その「人」「物」「場所」を想い、考え、行動したという事実の中に目には見えない何かがあるのではないか・・・人口減少、空き家など秋田に暮らしていく中で「なくなった」ものの中から「ある」ものを探す試み。</p>	<p>12月13日(金)～12月15日(日) 秋田オーバ 8F</p>
<p>3 もの考-秋田-</p> <p>植村 宏木 HIROKI UEMURA</p> <p>北海道生まれ。名古屋芸術大学大学院修了。ガラス、ドローイング、自然物などによるインスタレーションを行う。</p>	<p>秋田の風土や空気感、歴史や暮らしの中にある思考や感覚を調査。土地における記憶や時間、空気、気配といった「目には見えないが知覚できるもの」について考察を重ね作品化することで、秋田という土地を感覚的に捉える場の創出を試みた。</p>	<p>12月7日(土)・8日(日)・ 14日(土)・15日(日) 秋田オーバ 8F</p>
<p>4 秋田から始まるファッション～個人ブティックを訪ねて～</p> <p>虻川 彩花 AYAKA ABUKAWA</p> <p>秋田生まれ。秋田公立美術大学在学中より、人の記憶をテーマに作品作りに取り組む。</p>	<p>秋田市内の個人ブティックやリサイクルセンター特有の空間が作り出す、現代人が忘れていた大切な何かを思い出させるような感覚の正体を掴むためのリサーチと制作を実施。秋田における個人ブティック等の今日的機能を考え、新しいファッションのあり方も提案。</p>	<p>12月14日(土)～12月18日(水) フォンテ AKITA 6F</p>
<p>5 無いものねだりフェスティバル</p> <p>酒井 和泉 IZUMI SAKAI</p> <p>秋田生まれ。秋田公立美術大学3年生。幼少期の体験より病院でボランティアをする傍ら、立体作品を制作。</p>	<p>人間サイズの「現在の秋田県ぬいぐるみ」をショッピングモールに設置。秋田にあってほしいもの・なくなってほしいものを来場者にメモしてもらい、毎日ぬいぐるみで秋田県をアップデートする。遊び感覚で、人々が秋田で幸せに暮らすために必要な行動を思う契機をつくりだした。</p>	<p>11月3日(日)～11月27日(水) 秋田オーバ 5F 12月3日(火)～12月16日(月) にぎわい交流館</p>
<p>6 目が合った人の真似をする</p> <p>居村 浩平 KOUHEI IMURA</p> <p>高知生まれ。成安造形大学卒業後、福島に移住。ジャンルにとらわれない制作活動を行う。</p>	<p>目が合った人の表情、動作、ふるまい、口調などを真似る即興パフォーマンスを秋田市内で行い、その記録を展示。土方巽や西馬音内盆踊りなど秋田の踊りや地域特有の身体性を調査し、秋田の人々と視線を交わすことから新しい秋田の踊りの創作を試みた。</p>	<p>パフォーマンス 11月3日(日)～11月9日(土) フォンテ AKITA 6Fほか 記録資料展示 11月10日(日)～12月22日(日) フォンテ AKITA 7F</p>
<p>7 秋田と北海道をつなぐ</p> <p>佐藤 拓実 TAKUMI SATO</p> <p>北海道生まれ。東京造形大学大学院修了。北方交易、北前船、開拓移民などに関する調査を、絵画などで表現。</p>	<p>蝦夷地を旅し秋田で没した菅江真澄、秋田を含む大阪-北海道間の各地を繋いだ北前船、アイヌを描いた平福徳庵・百穂親子など、北海道との関係という視点から秋田で調査を行い、その成果を発表。新たな切り口での秋田像、北海道像、日本像の輪郭の一部を描き出すことを目指した。</p>	<p>12月14日(土)～12月22日(日) フォンテ AKITA 6F</p>



未来の生活を考えるスクール

既存の分野を超えて活動する人や新しい分野を創っている人たちをお招きし、トークや上映会などを実施した「未来の生活を考えるスクール」。地域の歴史や今日を知り、新しい知識や視点をすることで、みんなで今よりちょっと先の生活(=未来の生活)について考えてみました。



第1回

定員
50名

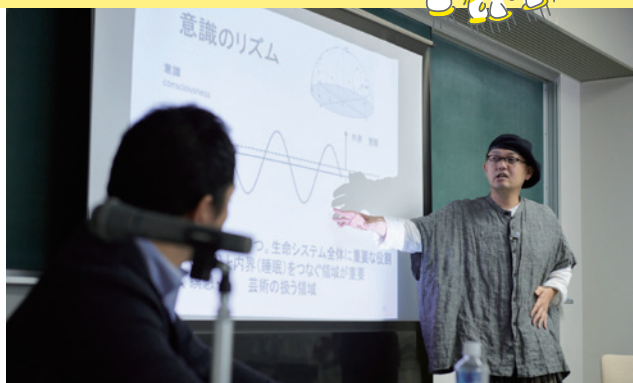
医療と芸術、いのちを呼びさます

日時 2019年9月7日(土) 14:00~15:30

会場 ほくとライブラリー明徳館 2F 研修室

トーク 稲葉俊郎 [医師、東京大学医学部付属病院循環器内科助教]

聞き手 唐澤太輔 [南方熊楠研究、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科准教授]



第2回

定員
100名

食べもののことを知る 映画『よみがえりのレシピ』+トーク

日時 2019年11月15日(金) 19:00~21:00

会場 ルミエール秋田 シアター2

トーク 渡辺智史 [映画監督]



第3回

定員
100名

演劇と教育 - 生きる方法を学ぶ -

日時 2019年12月1日(日) 14:00~16:00

会場 アトリオン3F 研修室

トーク いしいみちこ [ドラマティーター]

聞き手 柚木恵介 [アーティスト、秋田公立美術大学准教授]



第4回

定員
50名

ナリワイと生活 - 新しい生き方 -

日時 2019年12月21日(土) 14:00~16:00

会場 ヤマキウ南倉庫

トーク 伊藤洋志 [仕事づくりレベル「ナリワイ」代表]

聞き手 柳澤龍 [一般社団法人ドチャベンジャーズ会長/代表理事]



マチアルキ [秋田市中心市街地活性化協議会主催]



文化創造館開館後のまちの姿を思い描きながら、中心市街地を歩いた、「マチアルキ」。誰かと一緒に歩くと、「まちがいつもと違って見えた」という声も上がりました。

まちあるきツアーをつくる

日時 2019年11月3日(日) 13:00～17:00
 集合場所 秋田市民市場会議室
 アテンダント RAD-Research for Architectural Domain



SPACE LABOをみに行こう



日時 2019年11月10日(日) 14:00～16:00
 2019年12月15日(日) 10:00～12:00
 集合場所 秋田公立美術大学サテライトセンター



みんなで乾杯の練習

文化創造館が開館した未来のまちについて想像し、話し合う場「みんなで乾杯の練習」。それぞれのペースで、誰かとつながりながら、どんなまちであつたらいいのか、アイデアを出し合いました。

第1回

ピクニックで乾杯の練習



日時 2019年10月22日(火・祝) 11:45～14:00
 会場 にぎわい交流館 2F アート工房



第2回

こども大工募集！ 夢のクラフトハウスをつくろう

日時 2019年12月8日(日) 10:00～15:30
 会場 アトリオン 地下1F イベント広場



SPACE LABO

秋田駅前に立地する3つの商業施設内の空きスペースを“クリエイティストアジオ”に見立てて展開するプランを公募した「SPACE LABO」。14件のポスター展と7件のプラン展示を行いました。

ポスター展

日時 2019年11月3日(日)～12月22日(日)
 会場 フォンテ AKITA 6F 情報発信コーナー



ラボ・フェロープラン展

日時 2019年11月3日(日)～12月22日(日)
 会場 秋田駅前商業施設空きスペース

※各プランによって会期が異なります。

秋田市文化創造館を

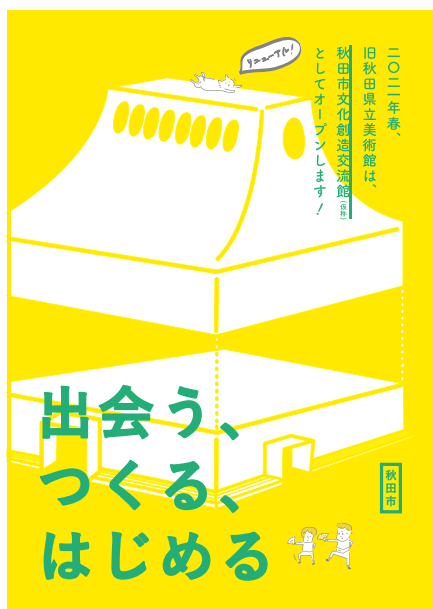
もっと知りたい人に!

秋田市文化創造館とは

2020年度、旧秋田県立美術館は秋田市文化創造館として生まれ変わり、未来に向けて新しい価値を生み出す「文化創造プロジェクト」の拠点として、出会い、つくり、はじめる場となります。市民一人ひとりの創造力を育むため、すべての人に場を開き、学びと出会いの機会、活動のための環境、情

報発信等のサポートを提供します。また、専門家等と協働して実験的なテーマに取り組む事業を通し、新たな思考や創造のきっかけを生み出します。さらに、施設で生まれた活動やアイデアを積極的にまちに開き、秋田の魅力づくりに貢献します。

概要がわかるパンフレット



プレ事業から生まれたマップ

「まちあるきツアーをつくる」

※本紙P18、19を参照



開館準備ウェブサイト

<https://www.2020akita.jp/>



Instagram

@2020akita



Twitter

@2020akita



文化創造館に関するお問い合わせ

秋田市企画財政部企画調整課

〒010-8560

秋田市山王一丁目1番1号

TEL:018-888-5462

E-mail:ro-plmn@city.akita.akita.jp

プレ事業「乾杯ノ練習」に関するお問い合わせ

NPO法人アーツセンターあきた

〒010-1632

秋田市新屋大川町12番3号 アトリエももさだ内

TEL:018-888-8137

E-mail:info@artscenter-akita.jp

<https://www.artscenter-akita.jp/>